

第1回 土橋自然観察教育林連絡協議会協議事項

開催日時：2012年4月18日（水）19：00～

開催場所：厚沢部町図書館視聴覚室

会 議 次 第

1. 開 会

2. 教育長挨拶

3. 教育林コーディネーター紹介

4. 協議事項

協議事項1 平成24年度土橋自然観察教育林関係事業計画

その他 懸案事項等

協議事項 1 平成 24 年度土橋自然観察教育林関係事業計画

主管係	社会教育係	記入者	石井淳平
事務事業名	土橋自然観察教育林管理事業	中期計画上の位置づけ	自然環境の保護と活用の推進
10 款 5 項 5 目	教育林管理費	事業費	3, 0 9 3 千円
事業の目的 (求める成果)	(1) 土橋自然観察教育林の自然環境を保護し、その価値を維持する (2) 土橋自然観察教育林の活用に必要な遊歩道等の施設を管理し、利用者の安全を確保する (3) 土橋自然観察教育林の活用に必要な情報収集及び広報、学習機会を提供する		

1. 教育林コーディネーター活用事業

期日：通年

内容：情報収集及び発信、見回り及び保護活動、利用者対応、遊歩道管理

2. 教育林巡回監視事業

期日：平成 23 年 4 月～11 月

内容：巡回監視により、遊歩道破損状況及び危険箇所、看板等設置物破損状況、危険動物痕跡を発見・報告する。

3. 土橋自然観察教育林管理事業

期日：遊歩道修繕、(随時)、遊歩道草刈り (6 月)、倒木処理 (随時)

内容：遊歩道草刈りは、砂利舗装路及び見本林のみ外部委託。その他は随時手刈りにて対応。

4. 植物モニタリング調査

期日：6 月 (開花調査)、8 月 (結実調査)

内容：対象植物の個体数・開花結実数計測

5. レク森講座開催事業

◎第 1 弾「コーディネーター講座」

期日：4 月 25 日

内容：教育林コーディネーターによる研究報告

◎第 2 弾 (未定)

期日：未定

内容：未定

③第3弾「インターバル撮影でみえる虫と植物の微妙な関係」(仮称)

期日：2月頃？

講師：京都大学大学院人間環境学研究科修士課程 末次健司氏

内容：研究協定に基づいて実施する教育林内のラン科植物のインターバル撮影調査の成果報告

6. レク森観察会開催事業

◎レク森観察会第1弾「森開き 2012 遊ぼう！春の森で」

期日：4月28日

内容：春の植物観察会

◎レク森観察会第2弾「セミの羽化を観察しよう」(仮称)

期日：7月21日

内容：展示館前フリーテントサイトにてセミの羽化観察会

◎レク森観察会第3弾「森の管理に挑戦しよう！！間伐個体選定体験」(仮称)

期日：10月

講師：檜山振興局森林室担当官

内容：施業予定のヒノキアスナロ人工林の間伐個体選定

◎レク森観察会第4弾「スノーシュー体験」(仮称)

期日：1月27日

内容：スノーシューを利用したトレッキング

7. 土橋自然観察教育林連絡協議会運営

期日：平成24年4月、11月

内容：教育林の保護と活用に関わる事業計画の協議

8. 森林展示館展示更新事業

期日：4～6月

内容：森林展示館の常設展示を更新する。(1)教育林の価値と位置づけ、(2)教育林の地質、歴史、動植物、(3)入林時の注意事項などを、写真パネルと解説板を中心として展示する。

9. 教育林パンフレット更新事業

期日：6～7月

内容：A3DM 折り。表面（入林時の注意、教育林の価値や特徴、特徴的な動植物）、裏面（教育林全体マップ）

10. ヒノキアスナロ人工林除間伐事業

今年度は間伐個体選定体験を行う

年 度	内 容
H24	除間伐個体選定
H25	第1段階施業 全体の40%程度の個体の除伐
H30～35	第2段階施業 林相や林床植生の変化を確認しながら間伐を進める

11. 展示館前シラカバ伐採にかかる後継樹育成事業

期日：通年（コーディネータ）

内容：展示館前シラカバの後継樹の育成を行う。種子または幼木を採取し、プランターにて播種・育成する。又は、シラカバ樹間を苗畑として使用。

12. 樹名板設置事業

期日：通年

内容：教育林内の利用頻度の高いコース上に樹名板を設置する。

ヒノキアスナロ人工林除間伐事業計画

【事業の目的】

土橋自然観察教育林内のヒノキアスナロ人工林の除間伐を行い、健全な森林育成を行う。

- (1) 人口林内の林床植生を回復する
- (2) ヒノキアスナロ植林以前のミズナラやトドマツを中心とした林相を回復する

【事業概要】

対象ヒノキアスナロ人工林

林小班	面積	樹種	林齢
302	1.08ha	ヒバ	52
303	0.92ha	ヒバ	58



302 林小班付近のヒノキアスナロ人工林林床の様子

第1段階＝基準を定め、除伐する。

40％程度の除伐となるように機械的に除伐を行う。
本数を減らすことを主眼とする

第2段階＝林相や林床の植生を確認しながら間伐を進める。

第1段階施業から5～10年経過後に実施

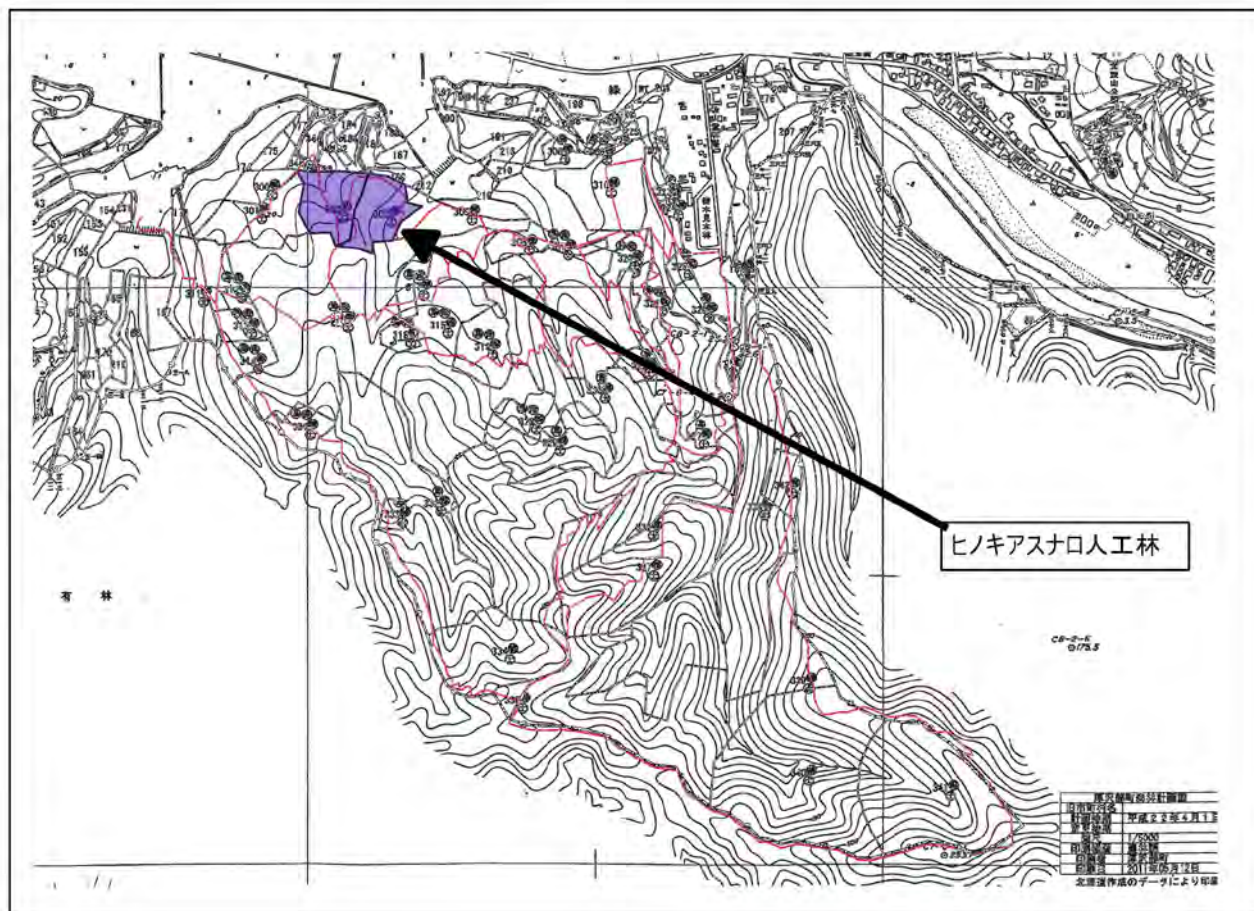
＊平成25年度に第1段階の施業を実施する

【施業方法】

- (1) 表土流亡の危険の高い沢筋の傾斜地から優先的に作業開始する
- (2) 広葉樹周辺の群状皆伐
高層を占める広葉樹周辺を群状皆伐し、天然林の回復を目指す。
- (3) 除伐材の処理
原則伐捨てとするが、現地での枝打ち、集積を行う。
- (4) 除伐材の活用
教育林内の木橋・木道・看板等の補修材として活用する。

【予算】

林務係に積算依頼



ヒノキアスナロ人工林の位置図

森林展示館前シラカバ後継樹育成事業計画

【事業の目的】

平成 24 年度に伐採処分が予定されている森林展示館前シラカバ後継樹として、教育林内、特に畑内川周辺に生育する樹種の苗を育成する。

【事業概要】

後継樹候補樹木＝ハルニレ、サワグルミ、カツラ、ナラ、トチノキ、ハンノキ

年次計画

年次	内容	備考
H24	種子採取及び播種	種子採取は、レク森観察会として実施するほか、コーディネータが随時採取
H28～30	展示館前に植付け	

【平成 24 年度事業実施方法】

(1)時期：通年（9～10月）

(2)場所：土橋自然観察教育林内

(3)内容

教育林内で広葉樹の種子を採取

観察会として種子採取を実施できればよいが、日程的に難しいかもしれない。

→種子採取の観察会は H25 事業としてはどうか？

採取した樹種は、プランターに播種する。シラカバ樹間を苗畑として利用することも検討。

【その他】

厚沢部町役場林務係、檜山振興局森林室の指導を受ける。